

愛宕神社鎮火祭齋行される
愛宕神社宮司 西田 利弘



国分鎮座の愛宕神社の創始は極めて古く、当社所有の由緒書巻物によると、継体天皇元年（西暦五〇七年）と書き記されております。
当社では毎年四月二十四日に鎮火祭を齋行しておりますが、これは火の神（伊邪那美命へいざなみのみこと）、火産靈命へほむすびのみこと）の御心を慰め、荒ぶることの無く、火難災害無きことを大神様に乞祈る祭典です。大宝年間（西暦七百年頃）すでに行われていたことが神祇命に記されています。後世になって宮中に於いても、六月と十二月大晦日の大祓の後夜行われてい

ました。お祓いは今日多くの神社で夏越、年末のお祓いとして盛んに齋行されていきますが、鎮火祭は一般に廃れて、わずかに各地の愛宕神社の一部に残っているようです。祭典には新撰の他に、水、匏（ひきご）、土（清砂）、川菜（水苔（みずごけ））、火打石を供えています。が、これは延喜式巻八の祝詞の中の鎮火祭祝詞に「水の神、匏、川菜、埴山姫（土の神）四種を生み給ひ、心悪子の荒び云々、鎮奉れと事教悟し給ひ云々」とあり、これに従って、当社の祭典にも同じくお供えしております。祭典には本殿にお供えした火打石で、かがり火に点火し、消防署長が匏に入った水を献水とし、この献水でもって消防署長と消防団長が火を鎮め、次いで千歳分団長が川菜で、国分班長が清砂にて火を鎮める所作を行います。遠き昔より伝わるこの祭典を祈念し続けていく所存です。

戦没者の御魂安らかに
遺族会 会長 廣瀬 春雄

四月九日（日）午前十時三十分より、七谷川河畔英霊塔前にて、千歳町自治会主催による平成二十九年度戦没者慰霊祭が厳粛に行われました。天気にも恵まれ、満開の桜のもと、多くのご遺族と町内外からのご来賓の皆様のご出席をいただきました。



に眠る七十七柱の殉国の御魂に、平和への祈りを捧げ、参加者全員が献花及び焼香をさせていただくことができました。

本年は太平洋戦争が終結してから七十二年目となります。国民の五人に四人が戦争を知らない世代となってきた今日、戦争の悲惨さや、残された遺族の悲しみや苦痛も、日々の生活の中で忘れられることが多くなりました。

私達は今の平和と恵まれた生活が、若くして尊い命を祖国のために捧げられた我が町のこれらご英霊、亀岡市全体で千六百八十二柱、当千歳町で七十七柱（陸軍六十五、海軍九、軍属他三各柱）亀岡市遺族会昭和四十九年発行の「みたまの記録」他）の尊い犠牲のうえにあることを、ひと時も忘れてはならないと思います。

千歳町では、現在五十二家族が千歳町遺族会を構成し、各区の班長さんを

中区 信楽会（しんぎょうかい）の皆様のご詠歌、町内七ヶ寺のご住職の読経の内、執行り行われ、当地

中心に、ご英霊のお守り、英霊塔の掃除、市や府の慰霊追悼式への出席などを行うと共に、戦争の悲惨さを若い世代に伝えてゆきたいと、活動しております。今年には自治会ともご相談して、町英霊塔の説明案内板の設置を計画しています。

今後とも町民の皆様のご指導とご理解をお願いいたします。

たたかいに 命捧げし 父と義兄 忘れじと思ふ 世は変われども（日本遺族会通信 九段短歌から）

廣瀬 春雄 さん
「瑞宝双光章 警察功労」受章



江島里区の廣瀬春雄様が、第二十八回危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章 警察功労」を受章されました。おめでとうございます。

危険業務従事者叙勲は、危険な業務に取り組み社会に貢献した人の功労をたたえるため、二〇〇三年に創設されたものです。（平成二十九年四月八日付け 京都新聞より）

「亀岡さくらまつり」開催を 「丹波七福神フェスティバル」につなげよう

自治会副会長 亀谷 益夫



自然が美しい丹波七福神のまち千歳、ここに桜の花が咲き誇り一層その美しさを増す時期に、野外活動センターを中心に亀岡市の主催により、さくらまつりが開催されました。市は、市内外に丹波地方随一の桜の名所を紹介し、憩いの場として自然の良さを発信し、かつ地域の活性化を図ることを目的に取り組みされました。

四月二日(日)はあいにく、桜の開花には少し早かったのですが、良い天気恵まれて参加者は市の発表で千五百人を数えた

そうです。

千歳町自治会も協賛し、ステージの組み立てを始め、全面的に協力をし、千歳コーナーも設けて取り組みました。

野外活動センターで開催された意義として、生涯学習の場として青少年が野外活動を通じて自然の中で、心身共に健全な育成を図ることを目的に、自然に対する思いやりやルールを守ることの大切さ、日常生活では味わえない体験や市民の憩いの場所として、安全快適に気持ちよく利用できる施設であることを促されたと考えています。

このさくらまつりイベントを、野外活動センターの増客につなげると共に、今年の「千歳はでっかい宝船 丹波七福神フェスティバル」を市の協力も得ながらさらに輪を広げたいと思っております。

フェス開催日程は、平成二十九年十一月十二日(日)の予定です。

昨年は最悪の天候でありましたが、今年最高の天候に恵まれるよう期待しております。

我が町千歳のすばらしい歴史・文化遺産を知って頂き、心安らぐ風景や美味しい農産物等を賞味頂き最高に楽しんでほしい、みなさんの温かいご協力を宜しくお願いいたします。

光秀まつりに参加して

去る五月三日、第四十五回亀岡光秀まつり武者行列に、この度ご縁があり参加させて頂きました。

本格的な衣装、鎧、兜を身につけて待

機すること約2時間、疲労と緊張でいっぱいでしたが、いざ行列が始まると沿道から多くの見物客の応援を頂き、また、それ程暑くもなく爽やかな天候にも恵まれ、気持ち良く亀岡市街約四キロを進めました。ただ、わらじでの行進は結構辛いものがありました。途中、大本本部での休憩中に茨木市から来られていた見物客のご夫婦、また別のご家族の子供達とそれぞれ一緒に記念写真を撮って頂きました。その時、今回参加させて頂き少しは役に立てたんじゃないかなと思えました。貴重な体験をさせて頂き良い思い出になりました。

北谷区 森川 透



実際に武者の格好をして、自分の足で歩く。舗装されている道とはいえ、鎧や鉄砲などを身につけて歩くことは思っていたよりもとても大変でした。

ましてや昔は、舗装されていない山道砂利道。それを草履で何時間も歩く、ということがどれだけのことか、昔の人はすごかった、ということが実感できました。普段では味わえない貴重な体験ができました。

中区 山田 なつみ

梶浦 梶子ママ 川東人権啓発推進協研修会 廣瀬 義直



「自分らしく生きる」と題して梶子ママの記念講演がありました。テレビのワイドショー、俳優活動等、講師さんの経歴から知名度も高く、会場の馬路生涯学習センターは満員となりました。

千歳町からも五十名を超える皆さんにご参加いただきました。

八十分、梶子ママのしゃべくりに笑ったりうなずいたり、多様性・違いを尊重し合う社会にしていくことの大切さを学びました。